ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

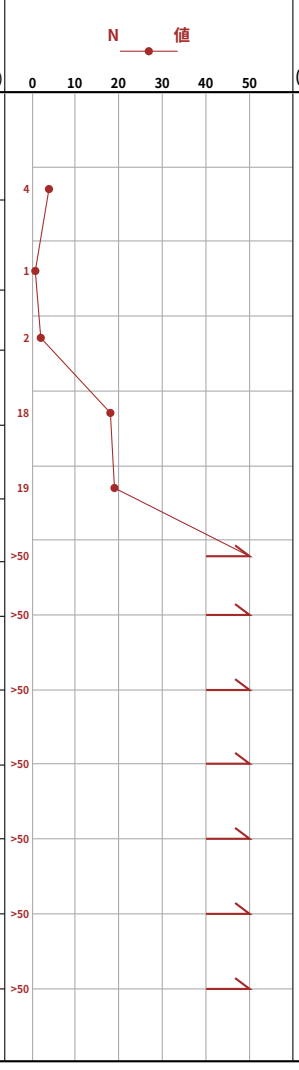
シートNO.

ボーリング名	No.1 (富士見橋)	調査位置				北　緯	36 ° 33 ’ 36.0000 ”
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2009-02-04 ～ 2009-02-06	東　経	139 ° 44 ’ 36.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	141.56 m	角度	180° 上 下 0° 90° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	12.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	139.96	1.50	1.60		As舗装 盛土(礫混じり粘土)(BS)	灰 淡褐灰～褐灰		軟らかい	駐車場のAs舗装 礫混じり粘土あるいはシルトである 若干,ローム混じるなど不均質である		
2	139.56	0.40	2.00		有機質シルト(MO)	暗茶褐		中位	粘性,含水中位 やや有機質帯びる		02/04 2.13
	139.26	0.30	2.30		風化軽石(Pm)	淡褐		非常に軟らかい	鹿沼軽石の二次堆積土と思われる 高含水で非常に軟弱である		
3	138.06	1.20	3.50		砂混じり粘土(CH-S)	淡青灰			上部,粘土主体であるが,下部に従い細砂の混入が多くなる 高含水で非常に軟弱である		
4	136.96	1.10	4.60		砂礫(GS)	青灰	中ぐらい	非常に軟らかい	礫はφ10～30mm程度の亜円礫が主体である 粗砂の混入多く,若干粘土混じりである		
5	135.26	1.70	6.30		粘土混じり砂礫(GS-C)	暗緑灰	中ぐらい		礫はφ20～40mm程度の亜円礫が主体である 礫間は,粗砂および粘土で充填されている 深度5.9m以深,φ100～200mm内外の玉石の点在がみられる		
6											02/04
7					安山岩(An)				新第三紀の安山岩 ち密堅硬である ダイヤモンドビットで掘削 コアは,L=5～40cm程度の短柱状～柱状を呈す 所々,亀裂がみられ面沿いに若干の変質が認められる 岩級区分はCM～CHに相当し,概ね良好である		
8											
9						暗灰					02/05
10											
11											
12	129.56	5.70	12.00								02/06

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	2	1		4
1.45	12	8	1	30
2.15	1			1
2.65	50			50
3.15	1			2
3.45	20	1		30
4.15	5	6	7	18
4.45				30
5.15	6	7	6	19
5.45				30
6.15	37	13		50
6.28		3		13
7.00	50			50
7.01	1			1
8.00	50			50
8.01	1			1
9.00	50			50
9.01	1			1
10.00	50			50
10.00	0			0
11.00	50			50
11.00	0			0
12.00	50			50
12.00	0			0



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日